



感染症患者発生情報（週報）

埼玉県内情報 2025 年 第 51 週 (12 月 15 日～12 月 21 日)

一類及び二類（結核を除く）感染症	報告なし		
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	5 人	類型 患者 3 人、無症状病原体保有者 2 人 血清型 O157 3 人、O91 1 人、不明 1 人
四類感染症	E 型肝炎	1 人	推定感染地域 国内
	レジオネラ症	1 人	病型 肺炎型
五類感染症	アメーバ赤痢	1 人	病型 腸管アメーバ症
	急性脳炎	2 人	病原体 インフルエンザウイルス A 型 1 人、 水痘带状疱疹ウイルス 1 人
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 人	血清群 G 群
	後天性免疫不全症候群	1 人	病型 無症状病原体保有者
	侵襲性肺炎球菌感染症	5 人	
	水痘（入院例）	1 人	病型 臨床診断例
	梅毒	10 人	病型 早期顕症Ⅰ期 6 人、早期顕症Ⅱ期 3 人、 無症状病原体保有者 1 人
	百日咳	28 人	
年齢階級 0 歳 2 人、3 歳 1 人、6 歳 1 人、7 歳 1 人、 10 歳代 10 人、20 歳代 5 人、30 歳代 4 人、 40 歳代 2 人、50 歳代 2 人			

＜百日咳の患者情報＞

第 51 週に届出があった百日咳の患者数（第 50 週以前に診断された患者を含む）は 28 人であった（前週 41 人）。

第 51 週に診断された患者数は 25 人で、前週と比較して減少したものの、やや多い状況にある（図 1）。

＜定点把握疾患の患者情報＞

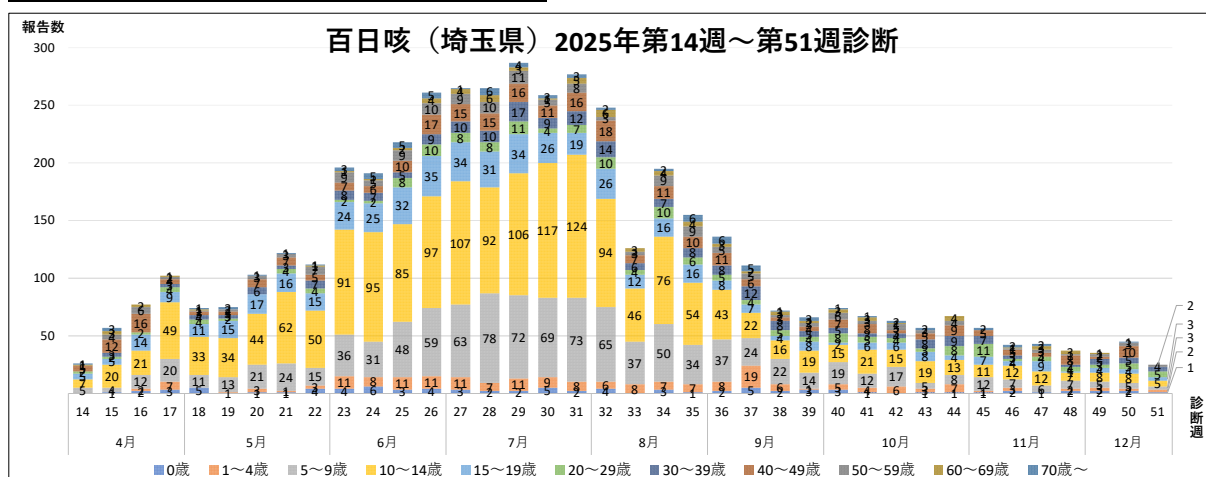
インフルエンザ（37.94→34.30：図 2-1～3）の定点当たり報告数は、減少のスピードが弱まり、依然として多い状況にある。年齢階級別では、14 歳以下の報告が全体の約 62%であった。基幹定点におけるインフルエンザ（入院）の報告数は 39 人（前週 51 人）で、前週と比較して減少した。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎（4.25*→3.77：図 3）の定点当たり報告数は、前週と同水準で、やや多い状況にある。感染性胃腸炎（5.71*→6.28：図 4）の定点当たり報告数は、第 49 週以降、緩やかな増加傾向にある。保健所別では、坂戸（9.33→15.00）、春日部（9.00→14.67）保健所管内で大きく増加した。新型コロナウイルス感染症（1.43→1.57：図 5）の定点当たり報告数は、前週と比較して同水準であった。基幹定点における新型コロナウイルス感染症（入院）の報告は 7 人（前週 7 人）であった。急性呼吸器感染症（104.57→99.44：図 6）の定点当たり報告数は、第 48 週以降、減少傾向にある。眼科定点報告疾患では、急性出血性結膜炎 2 人、流行性角結膜炎 21 人の報告があった。基幹定点報告疾患では、細菌性髄膜炎 1 人、マイコプラズマ肺炎 13 人（前週 11 人）の報告があった。

* 遅れ報告・修正報告を反映した値を掲載。

全国の感染症発生動向に関する情報は、国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト（URL：<https://id-info.nsg.go.jp/>）で御覧いただけます。

<注目すべき疾患（百日咳）>

図 1 百日咳の診断週別報告数の推移



<インフルエンザ流行情報>

図 2-1 インフルエンザの定点当たり報告数の推移

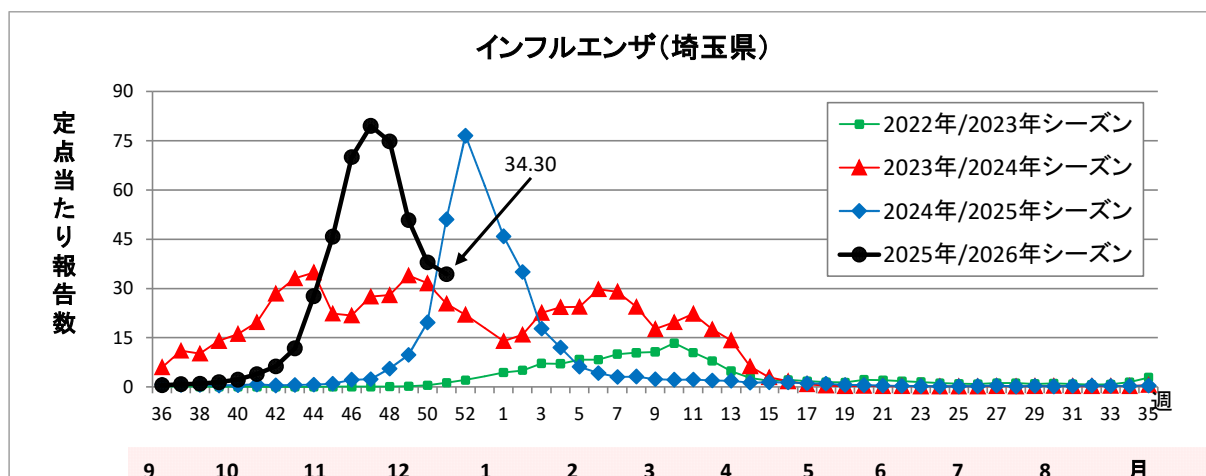
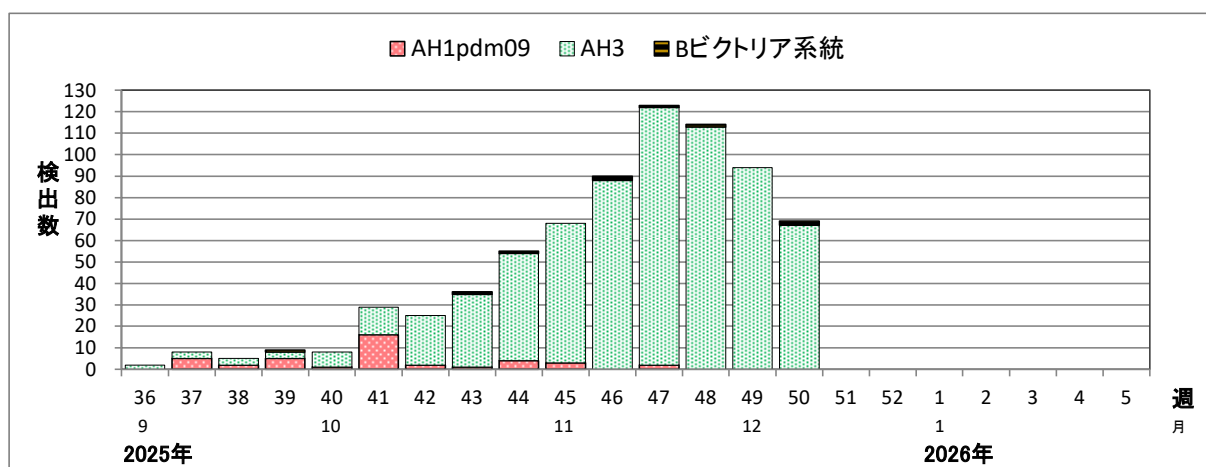
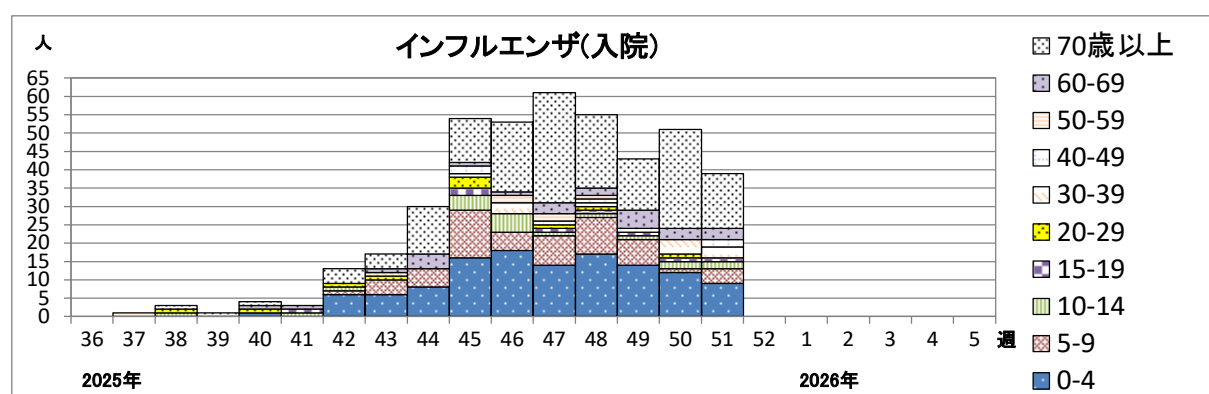


図 2-2 インフルエンザウイルスの週別検出状況



2025 年第 48 週～第 50 週（2025 年 11 月 24 日～12 月 14 日）の 3 週間に採取された急性呼吸器感染症検体のうち、インフルエンザウイルスが検出されその型別が終了した 277 検体は、AH3 型が 274 件（98.9%）、B ビクトリア系統が 3 件（1.1%）でした。

図 2-3 インフルエンザ（入院）の年齢階級別報告数



<今週の注目される定点把握対象疾患の推移>

図 3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数の推移

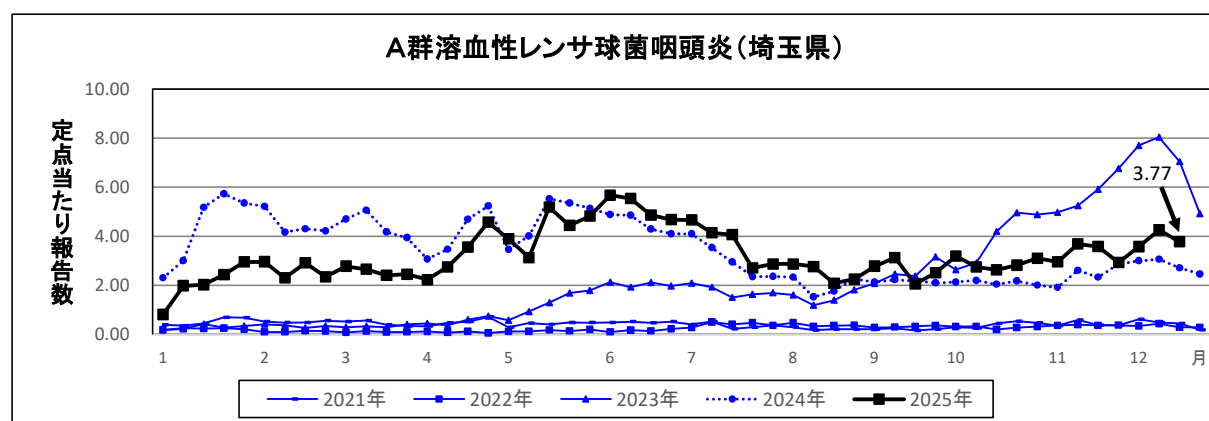


図 4 感染性胃腸炎の定点当たり報告数の推移

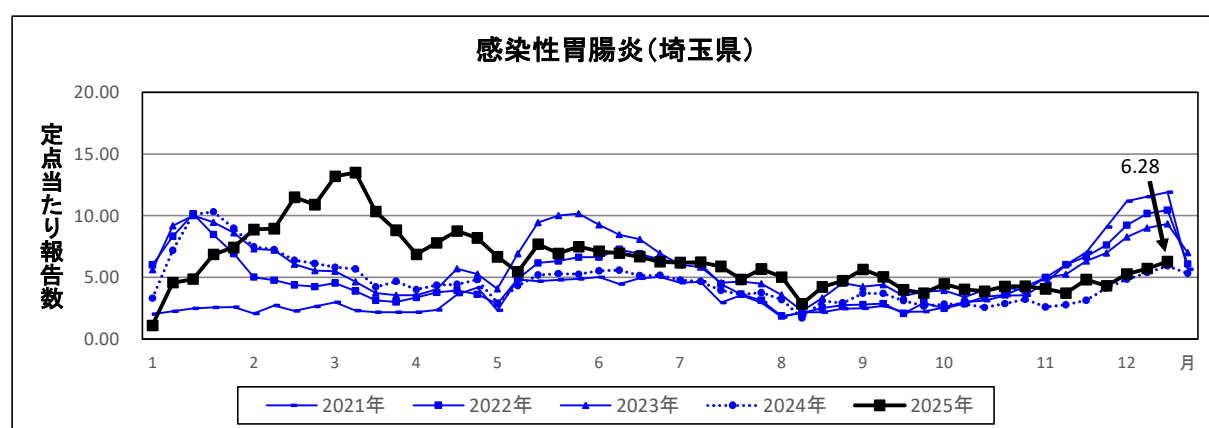


図5 新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数の推移

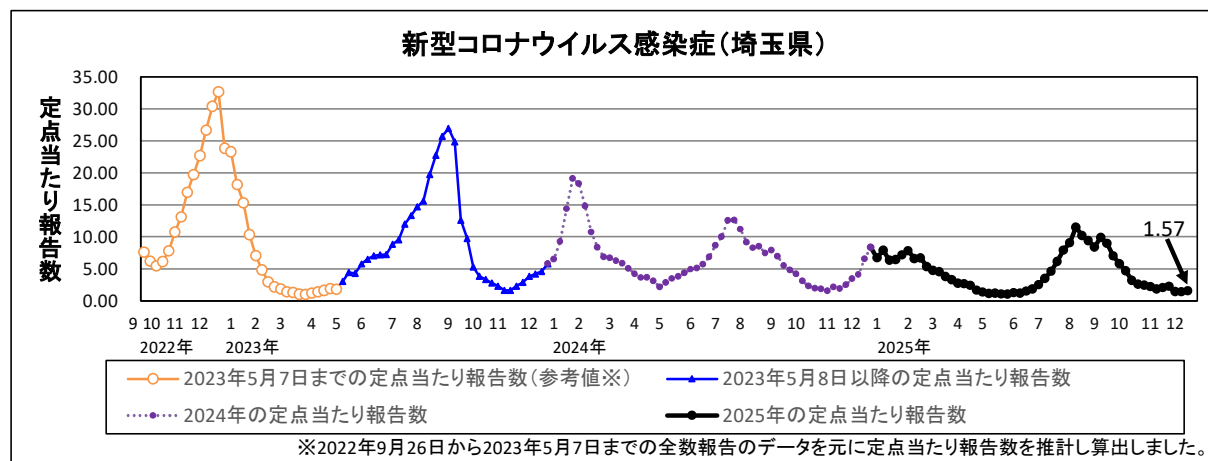
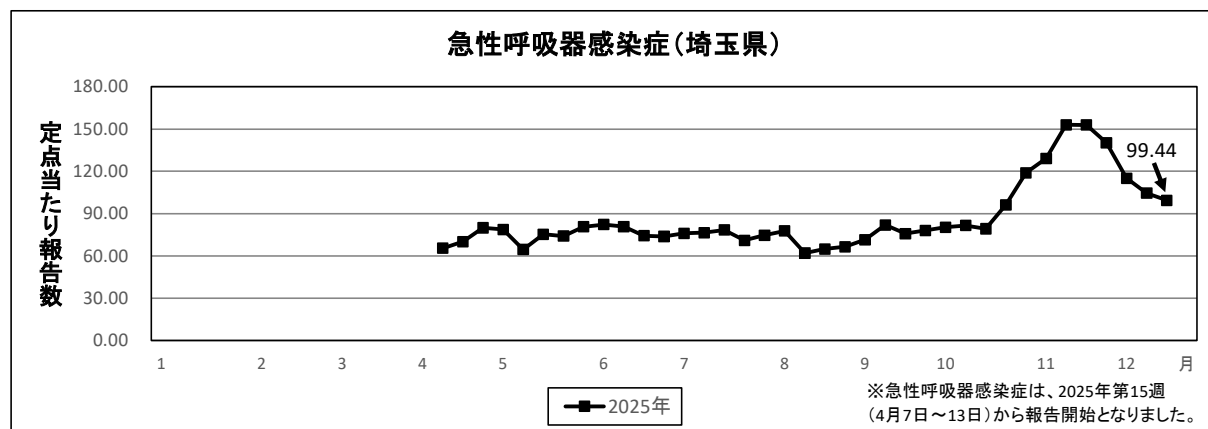


図6 急性呼吸器感染症の定点当たり報告数の推移



感染症発生状況(全数把握対象疾患)
(第51週)

(2025年12月23日 15:00集計)

	今週 届出	累 計		今週 届出	累 計
一類感染症					
エボラ出血熱			ペスト		
クリミア・コンゴ出血熱			マールブルグ病		
痘そう			ラッサ熱		
南米出血熱					
二類感染症					
急性灰白髄炎			中東呼吸器症候群(MERS)		
結核*1	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)		
ジフテリア			鳥インフルエンザ(H7N9)		
重症急性呼吸器症候群(SARS)					
三類感染症					
コレラ			腸チフス		4
細菌性赤痢		5	パラチフス		
腸管出血性大腸菌感染症	5	178			
四類感染症					
E型肝炎	1	40	東部ウマ脳炎		
ウエストナイル熱			鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)		
A型肝炎		9	ニパウイルス感染症		
エキノコックス症			日本紅斑熱		1
エムポックス			日本脳炎		
黄熱			ハンタウイルス肺症候群		
オウム病		1	Bウイルス病		
オムスク出血熱			鼻疽		
回帰熱			ブルセラ症		1
キャサナル森林病			ベネズエラウマ脳炎		
Q熱			ヘンドラウイルス感染症		
狂犬病			発しんチフス		
コクシジオイデス症			ボツリヌス症		
ジカウイルス感染症			マラリア		3
重症熱性血小板減少症候群			野兔病		
腎症候性出血熱			ライム病		
西部ウマ脳炎			リッサウイルス感染症		
ダニ媒介脳炎			リフトバレー熱		
炭疽			類鼻疽		
チクングニア熱		1	レジオネラ症	1	101
つつが虫病		3	レプトスピラ症		2
デング熱		5	ロッキー山紅斑熱		
五類感染症					
アメーバ赤痢	1	14	侵襲性肺炎球菌感染症	5	153
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)		12	水痘(入院例に限る)	1	29
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症		67	先天性風しん症候群		
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)		5	梅毒	10	515
急性脳炎	2	68	播種性クリプトコックス症		4
クリプトスポリジウム症		1	破傷風		7
クロイツフェルト・ヤコブ病		11	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	65	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		3
後天性免疫不全症候群	1	31	百日咳	28	4870
ジアルジア症			風しん		
侵襲性インフルエンザ菌感染症		22	麻しん		13
侵襲性髄膜炎菌感染症		5	薬剤耐性アシネトバクター感染症		

累計は診断日で集計

*1 結核は月単位で集計、別に掲載します。

感染症発生状況(定点把握対象疾患)	報告患者数			年 齢 別										(2025年第51週 12月15日～12月21日)									
	合計	-6ヵ月	-12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～		
インフルエンザ #1	6,036	31	68	205	264	280	305	346	339	298	286	266	1,039	414	538	403	348	253	184	102	67		
新型コロナウイルス感染症	276	5	4	9	4	4	3	4	3	8	10	3	14	7	25	31	41	28	22	22	29		
	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～										
急性呼吸器感染症	17,502	713	4,929	4,420	2,221	755	953	895	849	639	466	363	299										
	合計	-6ヵ月	-12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～								
RSウイルス感染症	53	9	12	12	9	4	2	2	1	1	-	1	-	-	-								
咽頭結膜熱	22	-	3	4	5	4	2	1	1	-	-	-	2	-	-								
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	419	-	3	8	15	34	34	54	46	41	57	39	69	5	14								
感染性胃腸炎	697	12	41	80	81	58	66	67	56	32	39	33	88	13	31								
水痘	43	-	2	2	1	-	2	1	4	5	4	4	17	1	-								
手足口病	6	-	-	2	-	-	1	-	1	-	-	1	1	-	-								
伝染性紅斑	11	-	-	1	-	2	1	2	3	2	-	-	-	-	-								
突発性発しん	27	-	3	13	6	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-								
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-								
流行性耳下腺炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-								
	合計	-6ヵ月	-12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～			
急性出血性結膜炎	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
流行性角結膜炎	21	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	4	-	3	2	6	-	3	1			
	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～						
細菌性髄膜炎 #2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-						
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
マイコプラズマ肺炎	13	-	2	6	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
クラミジア肺炎 #3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
インフルエンザ(入院)	39	2	7	4	2	1	-	-	3	-	1	1	-	-	-	3	15						
新型コロナウイルス感染症(入院)	7	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6						

※ 表中の数値は各定点からの報告数（-：0）

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

全国・関東情報

第49週 (12月1日～12月7日)

令和7年12月24日

<全国情報>

急性呼吸器感染症定点報告疾患(報告定点数:3,851):インフルエンザの定点当たり報告数は2週連続で減少したが、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)の平均と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は福岡県(65.56)、宮崎県(62.54)、長野県(57.04)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は1,951例と前週と比較して減少した。都道府県別では47都道府県から報告があり、年齢群別では0歳(107例)、1～9歳(603例)、10代(142例)、20代(36例)、30代(30例)、40代(32例)、50代(61例)、60代(132例)、70代(283例)、80歳以上(525例)であった。新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は第45週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は新潟県(3.38)、北海道(3.37)、熊本県(2.60)である。基幹定点からの新型コロナウイルス感染症入院サーベイランスにおける報告数は708例と前週と比較して減少した。都道府県別では47都道府県から報告があり、年齢群別では0歳(12例)、1～9歳(15例)、10代(6例)、20代(11例)、30代(8例)、40代(8例)、50代(26例)、60代(54例)、70代(164例)、80歳以上(404例)であった。急性呼吸器感染症(報告定点数:3,840)定点当たり報告数は2週連続で減少した。都道府県別の上位3位は埼玉県(114.57)、大分県(113.72)、栃木県(108.55)である。

小児科定点報告疾患(主なもの)(報告定点数:2,344):RSウイルス感染症の定点当たり報告数は第42週以降減少が続いているが、過去5年間の同時期の平均と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は奈良県(1.38)、北海道(1.37)、三重県(1.25)である。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は島根県(1.27)、宮崎県(1.13)、鹿児島県(0.90)である。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は愛媛県(6.95)、茨城県(5.35)、栃木県(4.63)である。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は岐阜県(8.15)、大分県(7.53)、群馬県(7.28)である。水痘の定点当たり報告数は横ばいであったが、過去5年間の同時期の平均と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は富山県(0.79)、滋賀県(0.77)、北海道(0.66)である。手足口病の定点当たり報告数は第38週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は沖縄県(0.84)、佐賀県(0.58)、長崎県(0.45)である。伝染性紅斑の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期の平均と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は鹿児島県(3.52)、宮崎県(2.87)、佐賀県(2.42)である。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は第44週以降減少が続いている。都道府県別の上位2位は青森県(0.12)、福井県(0.12)、富山県(0.10)、福岡県(0.10)である。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は2週連続で増加し、過去5年間の同時期の平均と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は山梨県(0.14)、宮城県(0.13)、宮崎県(0.13)、岩手県(0.11)である。

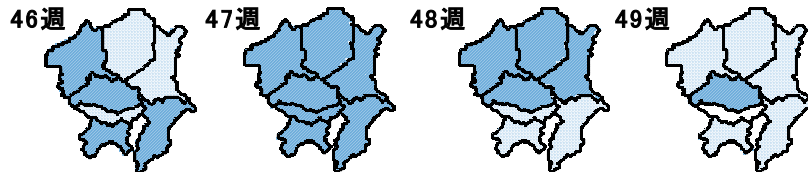
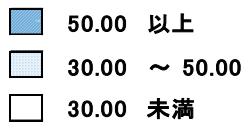
基幹定点報告疾患:マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は群馬県(3.67)、栃木県(3.43)、秋田県(3.13)である。感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)の定点当たり報告数は増加した。7都道府県から7例報告があり、年齢群別では0歳(1例)、1～4歳(1例)、5～9歳(4例)、10代(1例)であった。

Infectious Diseases Weekly Report Japan 2025年 第49週(12月1日～12月7日):通巻第27巻 第49号 より

<関東情報>

インフルエンザの定点当たり報告数は、埼玉県(50.82)からの報告が多い。

インフルエンザ



		2025年 49週								
		全国	関東地域	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
インフルエンザ #1	報告数	148,314	40,612	2,570	2,012	1,550	8,894	6,748	10,495	8,343
	定点当たり	38.51	34.53	38.36	42.81	34.44	50.82	37.08	25.17	34.33
新型コロナウイルス感染症	報告数	4,835	1,149	141	120	67	253	159	214	195
	定点当たり	1.26	0.98	2.10	2.55	1.49	1.45	0.87	0.51	0.80
急性呼吸器感染症	報告数	320,345	103,952	6,268	5,102	4,852	19,935	15,913	30,037	21,845
	定点当たり	83.42	88.77	93.55	108.55	107.82	114.57	87.92	72.20	90.64
RSウイルス感染症	報告数	1,342	208	8	20	18	35	26	57	44
	定点当たり	0.57	0.29	0.22	0.74	0.72	0.32	0.23	0.22	0.31
咽頭結膜熱	報告数	683	165	11	1	16	35	15	62	25
	定点当たり	0.29	0.23	0.30	0.04	0.64	0.32	0.14	0.24	0.18
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	6,024	2,264	198	125	61	393	369	663	455
	定点当たり	2.57	3.17	5.35	4.63	2.44	3.57	3.32	2.52	3.20
感染性胃腸炎	報告数	9,876	3,675	145	88	182	580	463	1,589	628
	定点当たり	4.21	5.14	3.92	3.26	7.28	5.27	4.17	6.04	4.42
水痘	報告数	792	263	12	12	6	35	35	93	70
	定点当たり	0.34	0.37	0.32	0.44	0.24	0.32	0.32	0.35	0.49
手足口病	報告数	193	30	-	-	1	7	10	9	3
	定点当たり	0.08	0.04	-	-	0.04	0.06	0.09	0.03	0.02
伝染性紅斑	報告数	1,436	96	6	2	5	11	30	20	22
	定点当たり	0.61	0.13	0.16	0.07	0.20	0.10	0.27	0.08	0.15
突発性発しん	報告数	514	158	11	13	11	33	14	54	22
	定点当たり	0.22	0.22	0.30	0.48	0.44	0.30	0.13	0.21	0.15
ヘルパンギーナ	報告数	60	15	-	-	-	3	1	5	6
	定点当たり	0.03	0.02	-	-	-	0.03	0.01	0.02	0.04
流行性耳下腺炎	報告数	105	33	-	2	2	5	7	12	5
	定点当たり	0.04	0.05	-	0.07	0.08	0.05	0.06	0.05	0.04
急性出血性結膜炎	報告数	5	3	-	-	-	2	1	-	-
	定点当たり	0.01	0.01	-	-	-	0.05	0.03	-	-
流行性角結膜炎	報告数	457	146	28	9	9	22	19	15	44
	定点当たり	0.66	0.70	1.65	0.75	0.64	0.51	0.56	0.38	0.86
細菌性髄膜炎 #2	報告数	2	-	-	-	-	-	-	-	-
	定点当たり	0.00	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	報告数	17	3	-	-	-	-	-	-	3
	定点当たり	0.04	0.03	-	-	-	-	-	-	0.25
マイコプラズマ肺炎	報告数	566	125	19	24	33	12	2	22	13
	定点当たり	1.18	1.44	1.46	3.43	3.67	1.00	0.22	0.88	1.08
クラミジア肺炎 #3	報告数	4	-	-	-	-	-	-	-	-
	定点当たり	0.01	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	報告数	7	-	-	-	-	-	-	-	-
	定点当たり	0.01	-	-	-	-	-	-	-	-

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

(-:0.00)

感染症発生動向調査 2025年

- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第1週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第2週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第3週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第4週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第5週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第6週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第7週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第8週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第9週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第10週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第11週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第12週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第13週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第14週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第15週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第16週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第17週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第18週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第19週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第20週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第21週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第22週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第23週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第24週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第25週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第26週](#)

感染症の流行状況 2025年 第51週（12月15日～12月21日）

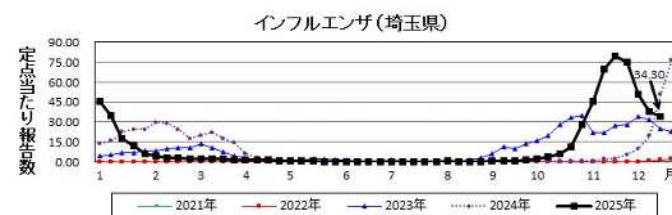
全数把握対象疾患（百日咳）

第51週に診断された患者数は25人で、前週と比較して減少したものの、やや多い状況にあります。



定点把握対象疾患（インフルエンザ）

定点当たり報告数は減少のスピードが弱まり、依然として多い状況にあります。



感染予防のため、[咳エチケット](#)、外出後の手洗いとともに、十分な休養をとるよう心掛けてください。また、体調がすぐれない時は、医療機関に電話で相談の上、早めに受診してください。

感染症流行状況

疾患	推移	流行状況	疾患	推移	流行状況
インフルエンザ	↓	★★★	手足口病	→	★
新型コロナウイルス感染症	→	—	伝染性紅斑（りんご病）	→	★
急性呼吸器感染症	↓	—	突発性発しん	→	★
RSウイルス感染症	→	★	ヘルパンギーナ	→	★
咽頭結膜熱（プール熱）	→	★	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	→	★
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	★★	急性出血性結膜炎	→	★
感染性胃腸炎	↑	★	流行性角結膜炎	→	★
水痘（みずぼうそう）	→	★			

*1.推移、流行状況は、県内全域の傾向です。*2.推移は2週間前からの傾向を示します。（→:増減無し、↑:増加、↓:減少）*3.流行状況は今週の流行を示します。（小さい→★、★★、★★★→大きい）*4.2025年第14週から定点医療機関の指定数が増えとなりました。疾患名をクリックすると、各疾患の流行状況のグラフがご覧いただけます。この情報は毎週水曜日に更新する予定です。ただし、祝日等により変更の場合もあります。また、全国の感染症発生動向状況については、国立健康危機管理研究機構のホームページ「[感染症情報提供サイト](#)」でご覧になれます。